

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標				成果の評価		施策の総合評価			
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	前年度実績	H27年度実績	対前年度比						
1 安心して生み育てることができる環境づくり	(1) 母子保健	① 安全に安心して妊娠・出産できる環境づくり	0	9	1	0	2	妊娠11週までの妊娠届出者の割合	増加	94.2%	93.8%	▲0.4pnt	3	2	<p>[指標の説明]</p> <p>*妊娠11週までの届出者の割合は、90%超の高水準を維持</p> <p>*生後4か月までの乳児家庭訪問の割合も、90%超を達成</p> <p>*「10代の妊娠中絶率」も減少</p> <p>[評価]</p> <p>>10代の妊娠者を含め、妊娠・出産期の健康管理や、乳幼児のいる家庭に早期に関わる養育支援などの取組みも順調であり、妊娠・出産前後・乳幼児期と、切れ目なく母子の健康、子の成長に対し、効果的な支援を行うことができたと考えている。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>>引き続き、母子の健康保持・増進を図り、安心して生み育てることのできる環境づくりを進めていく。</p>		
		② 発達の気になる子どもの早期発見、早期支援体制の強化	0	1	1	0		生後4か月までの乳児家庭訪問の割合	増加	86.8%	93.0%	6.2pnt	2				
		③ 養育支援の必要な家庭に対する支援の充実	0	8	0	0		10代の人工妊娠中絶率	減少	16.0%	13.7%	▲2.3pnt	2				
		④ 基本的生活習慣の定着や食育の推進	2	9	0	0											
		⑤ 適切な思春期保健の推進	0	2	0	0											
		計	2	29	2	0		31/33事業									
							93.9%										
	(2) 母子医療	① 周産期医療・小児救急医療体制の維持・確保	2	3	0	0	1	周産期医療、小児救急医療体制	維持	維持	維持	-	1	1		<p>[指標の説明]</p> <p>*市立医療センター総合周産期母子医療センター等4病院を中核とした産科連携体制を維持</p> <p>*市内医療機関の連携による24時間365日対応の小児救急医療体制を維持</p> <p>[評価]</p> <p>>前年度と同様の周産期・小児救急医療体制を維持したことにより、市民に大きな安心感を与えることができた。</p> <p>>その他、不妊治療の助成拡充や乳幼児医療助成拡大の検討などに取り組んでおり、支援は順調に進捗している。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>>引き続き、医師の確保、制度の拡充など、支援体制の維持・拡大を図っていく。</p>	
		② 子どもの感染症予防の推進	0	1	0	0											
		③ 不妊治療に関する支援の充実および市民の理解促進	0	1	0	0						7/7事業					
		計	2	5	0	0		100%									
	(3) 子育ての悩みや不安	① 地域における子育て支援の環境づくり	12	32	4	0	2	子育ての悩みや不安を感じる人の割合 (i) 就学前児童	減少	25.6%	23.9%	▲1.7pnt	2	2			<p>[指標の説明]</p> <p>*子育ての悩みや不安を感じる人の割合がどの学年においても減少</p> <p>*子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合は、微減に止まった。</p> <p>[評価]</p> <p>>親子ふれあいルームの運営や地域の子育て支援団体の活動支援、子ども・家庭相談コーナーや子育て支援サロン「びあちえーれ」における相談対応など、取組みはいずれも順調であり、市民の子育ての悩みや不安の解消に、大いに寄与することができたと考えている。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>>引き続き、子育ての悩みや不安をできる限り減らすことができるよう、これらの取組みを推進していく。</p>
② 市民が利用しやすい相談体制		0	8	0	0	(ii) 小学生		減少	30.2%	29.4%	▲0.8pnt	2					
③ 必要とされる子育てに関する情報が市民に届く仕組みづくり		1	4	0	0	(iii) 中学・高校生		減少	32.9%	28.1%	▲4.8pnt	2					
④ 少子化への対応や多様化・複雑化した悩みへの支援		3	7	0	0	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 (i) 就学前児童		増加	51.3%	49.0%	▲2.3pnt	3					
計		16	51	4	0	67/71事業		(ii) 小学生	増加	64.0%	64.2%	0.2pnt	2				
						94.4%		(iii) 中学・高校生	増加	67.1%	61.1%	▲6.0pnt	3				

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標				成果の評価		施策の総合評価	
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	前年度実績	H27年度実績	対前年度比				
1 安心して生み育てることができる環境づくり	(4) 家庭の教育力の向上	① 子どもの健全育成の基礎となる家庭の教育力の向上	1	11	1	0	2 16/19事業 84.2%	朝食をほぼ毎日食べている児童の割合（就学前児童）	100% [H29年度]	78.2%	93.8%	15.6pnt	1	2 B	[指標の説明] ＊朝食を毎日食べている児童の割合は、いずれも高水準を維持 ＊就寝時間が午後10時以降の児童の割合は、前年度に比べ減少 [評価] >これまでの啓発等の取組みにより、睡眠や食事等の基本的な生活習慣を身につけることの重要性が、家庭内でも充分認識されてきたと考えている。 >一方で、朝食に充分時間がとれず、就寝時間が遅くなる理由の一つに、親の勤務の都合を挙げる声も多くある。 [今後の方向性] >家庭が子育てについての第一義的責任を有することを踏まえつつ、地域や学校、企業など地域社会全体で、親の働き方を含め、子ども中心の生活スタイルに改善する努力が必要である。
			0	2	2	0		朝食を「毎日食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童の割合（小学6年生）	100% [H30年度]	92.9%	92.0%	▲0.9pnt	3		
		1	1	0	0	（中学3年生）		100% [H30年度]	91.6%	90.5%	▲1.1pnt	3			
		1	1	0	0	家族の人が話をよく聞いてくれる割合（小学6年生）		増加	89.8%	87.5%	▲2.3pnt	3			
		2	14	3	0	（中学3年生）		増加	84.9%	86.6%	1.7pnt	2			
		計	2	14	3	0									
5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進	(5) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進	① 事業者等との共同による仕事と生活の調和の推進	3	3	0	0	1 11/11事業 100%	仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合	増加	27.4%	48.0%	20.6pnt	1	2 B	[指標の説明] ＊仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合が上昇 ＊父親の家事・育児参加率も上昇 [評価] >ワーク・ライフ・バランスについての市民や企業等に対する働きかけは順調で、広く意識醸成を図ることができた。 >「子育ての中心は母親」という状況は続いているが、父親も「週末は育児に積極的」「妻の負担を軽減する努力をしている」などの意見もある。男性の育児参加は徐々に浸透しつつある。 [今後の方向性] >引き続き、市民や企業等に対し、ワーク・ライフ・バランスの実践や育児参加を働きかけていく。
			0	5	0	0		就学前児童をもつ父親が、家事・育児をしている割合（i）家事	増加	66.7%	69.3%	2.6pnt	2		
		0	5	0	0	（ii）育児		増加	75.5%	90.4%	14.9pnt	1			
		0	5	0	0	主に子育てをしているのが「父母ともに」と回答した人の割合（i）就学前児童		増加	62.1%	51.2%	▲10.9pnt	4			
		3	8	0	0	（ii）小学生		増加	44.0%	51.1%	7.1pnt	2			
		計	3	8	0	0									
6 安全・安心なまちづくり	(6) 安全・安心なまちづくり	① 子育て家庭が利用しやすい公園・遊び場の整備	3	2	0	0	2 30/32事業 93.8%	子どもの遊び場や公園に対する満足度	増加	39.9%	48.7%	8.8pnt	2	3 C	[指標の説明] ＊遊び場や公園の満足度は上昇 ＊外出時に安心と感じる割合は下落 [評価] >安全に配慮した公園整備や、ふれあい交流プラザなど屋内の遊び場の提供などにより、満足度が上昇していると考えている。 住宅地に隣接する公園ではあまり子どもを見かけないが、乳幼児の場合、同世代の子どもが多く遊んでいる公園まで、車などで出かけていくという意見もある。 >一方、外出時に安心と感じる割合が下落しており、特に、通学路を含めた道路環境のさらなる改善に取り組む必要がある。 [今後の方向性] >安心して子育てができるよう、公園・道路等の整備・改善に取り組むとともに、防犯意識など個人や地域の安全意識の醸成も図っていく。
			5	9	0	0		子どもとの外出時に安心と感じる割合	増加	55.4%	40.5%	▲14.9pnt	4		
		1	2	1	0										
		4	1	1	0										
		2	1	0	0										
		計	15	15	2	0									

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標				成果の評価		施策の総合評価		
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	前年度実績	H27年度実績	対前年度比					
2 子どもの育ちを支える幼児期の学校教育や保育の提供	(7) 幼児期の学校教育や保育の提供	① 保育の量の確保と教育・保育の質の向上	14	14	6	3	2	保育所待機児童数（4月） 【H30.31年度】	0人	0人	0人	±0	1	1	<p>[指標の説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> * 保育所待機児童（4月時点）は0人を維持 * 保育所待機児童（10月時点）は大幅減 * 幼稚園・保育所の満足度上昇（90%近い数値） <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> > 小規模保育事業の開設や認定こども園への移行の支援などを行い、待機児童の大幅減を達成した。 > また、以下の取組みの結果として、保育所等の施設について90%近い満足度を達成できたものと考えている。 <ul style="list-style-type: none"> ・延長保育や一時保育など親の働き方等に合わせた多様な保育サービスを提供したこと ・「保育士・保育所支援センター」の開設し、求人数には及ばないものの保育士確保に努めたこと ・研修や評価制度の実施など保育士等の資質向上を着実に進めたこと <p>[今後の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> > 引き続き、年間を通じた待機児童の解消、施設の満足度向上のため、幼児期の学校教育や保育の質と量の両面の向上に取り組んでいく。 	
		② 幼稚園、保育所等における多様なニーズに対応した保育サービスの充実	4	3	0	0		保育所待機児童数（10月） 【H30.31年度】	0人	246人	139人	▲107人 (▲43.5ppt)	1			
		③ 幼稚園、保育所等における障害児保育の充実	4	4	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度（施設・環境） (i) 幼稚園	向上	68.5%	86.9%	18.4ppt	1			
		④ 保育所、幼稚園等と小学校の連携の充実	0	1	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度（施設・環境） (ii) 保育所	向上	72.5%	86.1%	13.6ppt	1			
		⑤ 幼稚園、保育所等における子育て支援の充実	4	9	1	0		幼稚園・保育所に対する満足度（教育・保育の内容） (i) 幼稚園	向上	74.2%	89.6%	15.4ppt	1			
		⑥ 教育・保育に関する情報提供	2	1	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度（教育・保育の内容） (ii) 保育所	向上	84.4%	89.3%	4.9ppt	2			
		計	28	32	7	3		60/70事業	幼稚園における学校関係者評価実施施設数 【H31年度】	90施設	54施設	54施設	±0			2
		計	85.7%	保育所における児童福祉施設等第三者評価の実施施設数 【H31年度】	全施設	150施設		156施設	6施設 (4.0ppt)	2						
3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	(8) 放課後児童クラブ	① 放課後児童クラブの運営基盤の強化	0	2	0	0	1	放課後児童クラブの待機児童数（4月） 【H31年度】	0人	0人	0人	±0	1	2	<p>[指標の説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> * クラブの待機児童数は0人を維持 * 開所時間等の満足度は微減 <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> > 希望する全ての小学児童を受け入れながら、平成23年度以降、待機ゼロを維持している。 > 今年度から、児童の集団規模を小規模化するとともに、指導員の配置も手厚くしたことが満足度向上に繋がっている。小学児童を対象に行ったアンケートでも、93%が「クラブは楽しい」と回答している。 <p>[今後の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> > 開所時間等については、クラブのニーズ等を踏まえながら、検討を進めていきたいと考えている。 	
		② 放課後児童クラブの魅力向上	1	4	0	0		7/7事業	放課後児童クラブに対する満足度 (i) 施設・環境	向上	61.9%	65.8%	3.9ppt			2
		計	1	6	0	0		100%	放課後児童クラブに対する満足度 (ii) 開所日・開所時間	向上	76.2%	73.4%	▲2.8ppt			3

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標				成果の評価		施策の総合評価	
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	前年度実績	H27年度実績	対前年度比				
3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	(9) 青少年の健全育成	① 青少年への社会体験活動等の機会や場の提供	11	17	3	2	2	青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動	増加	5,279人	5,415人	136人 (2.6pnt)	2	1	<p>[指標の説明] *青少年のボランティア体験活動は増加 *非行者の率は着実に低下</p> <p>[評価] > 青少年の成長に欠かすことのできない体験活動を提供する青少年ボランティアステーションでは、体験活動者が増加に転じており、今後も力を入れていく必要がある。 > 非行者の率は、着実に減少しており、非行防止教室・薬物乱用防止教室や、地域・学校・警察等と連携した支援体制が成果をあげていると考えている。 > いじめ・不登校等の問題については、確実な実態把握に努め、スクールソーシャルワーカー等と協力しながら、きめ細かな対応を行っている。 なお、いじめについては、全市調査を行い、把握した事案を全て解決している。</p> <p>[今後の方向性] > 引き続き、関係機関等と連携し、青少年の健全育成を進めていく。</p>
		② 有害環境から青少年を守り、非行を未然に防止するための取り組みの推進	3	6	0	0		非行者率 (少年人口1,000人あたりの人数)	7.0人	9.6人	7.9人	▲1.7人 (▲17.7pnt)	1		
③ 危険ドラッグをはじめとする薬物の乱用防止対策の推進		0	3	0	0	いじめの解消率 (i) 小学生		100%	91.5%		-	-			
④ 不登校やいじめの未然防止、解消に向けた取り組みの推進		1	3	0	0	(ii) 中学生		100%	99.2%		-	-			
⑤ テートDV予防啓発の推進		1	0	0	0										
計		16	29	3	2	45/50事業 90.0%									
	(10) 子ども・若者の自立や立ち直りの支援	① 若者の自立を支援する環境づくり	1	5	0	0	1	「YELL」来所相談者の就業等実績(累計)	500人	241人	291人	50人 (20.7pnt)	1	<p>[指標の説明] *若者の自立をサポートする「YELL」来所者の就業等の実績が向上 *非行歴のある青少年の雇用主の受入は昨年度並みで推移</p> <p>[評価] > 子ども・若者応援センター「YELL」において、悩みや課題を抱える若者に対し、自立に向けた支援等を継続的に行った結果、就労・就学に至った者が増加した。 > 業務上損害を受けた場合の見舞金制度の運営や表彰制度等を実施し、非行歴のある青少年を受け入れてくれる協力雇用主の拡充を図った。 非行歴のある青少年の雇用は昨年度並みに止まっているが、協力雇用主は、95社から156社に増加しており、受入の下地は拡大している。</p> <p>[今後の方向性] > 若者が社会生活を円滑に営むことができるよう、引き続き、自立を支援する環境づくり、非行からの立ち直りを支える取組みを進めていく。</p>	
		② 非行からの立ち直りを支える取り組みの推進	0	4	0	0		北九州市協力雇用主見舞金登録者数	増加	17人	17人	±0			2
		計	1	9	0	0		10/10事業 100%							

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標				成果の評価		施策の総合評価	
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	前年度実績	H27年度実績	対前年度比				
4 特別な支援を要する子どもや家庭への支援	(11) 社会的養護が必要な子どもへの支援	① 児童養護施設における生活環境整備等の促進	0	7	0	0	1	地域小規模児童養護施設・小規模グループケアの実施か所数	23か所	13か所	15か所	2か所	1	<p>[指標の説明]</p> <p>*家庭的な養護を推進する施設等（地域小規模養護施設・小規模グループケア）が増加</p> <p>*里親やファミリーホームなどの普及率が向上</p> <p>[評価]</p> <p>> 地域小規模児童養護施設などを概ね目標どおり整備したことにより、社会的養護が必要な子どもが、家庭的な環境・安定した人間関係のもとで、きめ細かなケアを受けられる体制が拡大した。</p> <p>> 里親制度やファミリーホームの普及啓発を行った結果、里親等の委託率が前年度に比べ上昇し、それぞれの子どもにあった養育環境の整備を着実に進めることができた。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>> 今後も、社会的養護が必要な子どもが健やかに生まれ、自立できる社会環境づくりを進めていく。</p>	
		② 里親や小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）の普及促進	0	3	0	0			10/10事業	[H31年度]	(15.4pnt)				
計		0	10	0	0	100%	[H31年度]								
	(12) ひとり親家庭等への支援	① ひとり親家庭の生活の安定と向上	1	9	2	1	2	ひとり親家庭の就業を支援する施策の利用数（母子・父子福祉センター延べ利用者数）	増加	10,252人	10,015人	▲237人	3	<p>[指標の説明]</p> <p>*母子・父子福祉センターの利用者数は前年並み（約1万人）を維持</p> <p>*ひとり親家庭の支援・相談窓口のうち、母子・父子福祉センターを知らない人は減少（認知度は向上）</p> <p>[評価]</p> <p>> 母子・父子福祉センターの利用数は、毎年度延べ1万人を超えており、多数の支援を行うことができた。</p> <p>> ひとり親家庭の支援・相談窓口の認知度向上を図るため、様々な機会を通じPRした結果、母子・父子福祉センターの認知度は大幅に向上した。支援のきっかけとなる「入口」の認知度が向上したことは、今後につながる成果といえる。</p> <p>> 子どもの貧困対策については、関係局の連絡会議を定期的（開催し、既存の取組みを「子どもの貧困対策」として再整理する等、次年度以降に向けた検討が着実に進められた。既存の取組みによる例として、「教育の支援」では、基礎的・基本的な学力の定着を目的に無償で実施している「子どもひまわり学習塾」があり、平成27年度、小学校131校中70校、中学校62校（全中学校）で実施した。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>> 引き続き、ひとり親家庭が自立し安定した生活を営むことができるよう、就業支援などに取り組んでいく。</p> <p>> 子どもの貧困対策については、経済的貧困の状況や保護者の就業の状況など、本市における「子どもの貧困」の実態を、総合的かつ多面的に把握したうえで、今後の方針を検討する必要がある。</p>	
								ひとり親家庭の支援・相談窓口を知らない人の割合（i）母子・父子福祉センター	減少	58.8%	39.8%	▲19.0pnt	1		
								（ii）子ども・家庭相談コーナー	減少	11.8%	14.5%	2.7pnt	3		
		② 子どもの貧困対策	1	11	2	1		22/28事業	ひとり親家庭の就業率（i）母子家庭	増加	-	-	-		-
		計	2	20	4	2		78.6%	（ii）父子家庭	増加	-	-	-		-

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標				成果の評価		施策の総合評価		
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	前年度実績	H27年度実績	対前年度比					
4 特別な支援を要する子どもや家庭への支援	(13) 児童虐待への対応	① 児童虐待の発生予防・早期発見・早期対応および適切な支援	1	10	0	0	1	児童虐待対応件数	減少	454件	606件	152件	-	-	A	<p>[指標の説明]</p> <p>*児童虐待対応件数は増加</p> <p>[評価]</p> <p>>児童虐待の発生予防・早期発見等を図るため、関係職員等に対する研修会を実施するとともに、拠点病院に配置した児童虐待専門コーディネーターを活用する「児童虐待防止医療ネットワーク事業」のさらなる推進を図るなど、対応強化を進めた。</p> <p>>結果として、児童虐待対応件数は増加傾向にあるが、これは取組み強化によって、これまで顕在化していなかった事案の掘り起こしに繋がっているためであると考えている。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>>児童虐待対応件数の推移を注視しつつも、引き続き、関係機関と連携し、児童虐待の発生予防・早期発見・早期対応に努めていく。</p>
		計	1	10	0	0										
(14) 障害のある子どもへの支援	① 障害のある子どもの早期発見と相談・支援体制	7	8	1	1	2	専門機関・施設等に相談する割合	増加	50.8%	47.7%	▲3.1pnt	3	2	B	<p>[指標の説明]</p> <p>子どもの成長や発達、障害に関する不安等について...</p> <p>*友人や家族を含め、相談できる相手が全くいない人の割合は減少（相談できる人がいる割合が増加）</p> <p>*相談できる人がいる人のうち、相談できる専門機関・施設がある人の割合が減少</p> <p>[評価]</p> <p>>子どもの成長や発達、障害に関する不安等を感じている親のうち、誰か相談できる人がいる割合は、若干程度であるが増加している。</p> <p>>そのうち、相談できる専門機関・施設等がある人の割合は減少となっているが、これは、早期に子どもと接触し、必要な情報提供を行うなど、親の不安解消に取り組んだ結果であると考えている。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>>引き続き、子どもの成長過程に応じ、切れ目なく相談や支援を行い、必要な時に必要な支援を受けることのできる環境整備に取り組む。</p>	
	② 保育所等での障害のある子どもの受け入れや保育内容の充実と、小学校等入学時の情報伝達の強化	3	2	0	0		相談する相手がいない人の割合	維持	5.0%	4.5%	▲0.5pnt	2				
	③ 障害のある子どもの放課後対策の充実	2	2	0	0		56/63事業 88.9%	/								
	④ ライフステージを通じた相談支援体制の強化とレスパイトなど保護者の負担軽減の充実	2	11	1	1											
	⑤ 重度の障害のある子どもへの支援の強化	4	8	1	0											
	⑥ 発達障害のある子どもへの支援の充実	4	3	2	0											
	計	22	34	5	2											